

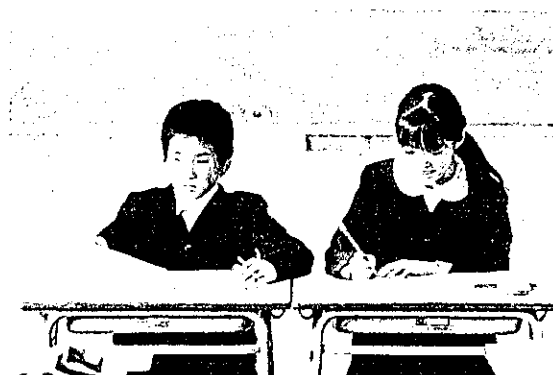
平成23年（2011年）1月11日（火）

北海道教育大学附属札幌小学校

教諭 岡田 一伸

指導と評価の一体化をよりよく実現する言語活動を目指して

～一人一人の子どもが確かに自信をもてるために～



資料内容

1. 本報告の意図
2. 自校の年間指導計画
3. 実践単元のねらいと
言語活動設定の意図
4. 授業の実際
5. 成果と課題
6. 今後に向けて

目次

1. 本報告の 意図

- 2. 自校の
年間指導計画
- 3. 実践単元の
ねらいと
言語活動
設定の意図
- 4. 授業の実際
- 5. 成果と課題
- 6. 今後に
向けて

その1

言語活動を通して指導事項を指導する

…具体的にはどうするとよいのか

4月から全面実施となる学習指導要領では、指導事項を言語活動を通して指導していくと、強く意識する必要がある。

では、具体的にはどうするとよいのか。

言語活動そのものの教材研究を含めて考えてみたい。

今回は、読むこと領域（5・6年生）の指導事項エとオについての実践と考察について報告したい。



その2

子どもたちの状況をとらえ、指導に生かし、力を高める

…具体的にはどうするとよいのか

日々子どもたちとの学校生活から、“今日の前にいる子どもたち”の状況をどうとらえ、どう育てていきたいと願うのか。大きな意味での目指す子どもの姿をどう設定しているのかを報告したい。

また、そうした願う子どもの姿を実現するために、そしてそのためにとても大きな意味をもつ国語科の目標をどう実現していこうとしているのかについて報告したい。



目次

1. 本報告の 意図

2. 自校の 年間指導計画

3. 実践単元の ねらいと 言語活動 設定の意図

4. 授業の実際

5. 成果と課題

6. 今後に 向けて

昨年発行した、自校の年間指導計画

昨年度発行した自校の年間指導計画では、以下の3つのポイントを柱として作成した。

- 学習に「自分」を位置付ける
- 伝え合うべきは「根拠」
- 目的・意図の明確な言語活動を

ひとつめの「自分」に込めた意図は「自分を表現すること」。二つめの「根拠」に込めた意図は、話し合うことを通してお互いを分かり合うためには、個々の考えの理由について考え合うことが大切であるということ。三つ目の「目的・意図」に込めたものは、指導と評価のポイントを焦点化すること。

今回報告する「読むこと」領域では

文学的文章单元Ⅰ

本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。伝記を読み、自分の生き方について考える。

文学的文章单元Ⅱ

登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れていると思う叙述を選び自分の考えをまとめる。

文学的文章单元Ⅲ

本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。本を読んで推薦の文章を書く。

文学的文章单元Ⅳ

目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む。

資料1 北海道教育大学附属札幌小学校 教育課程を参照のこと

目次

1. 本報告の
意図
2. 自校の
年間指導計画
3. 実践単元の
ねらいと
言語活動
設定の意図
4. 授業の実際
5. 成果と課題
6. 今後
に向けて

今回報告させていただくのは、『生き方を見つめて読もう 大造じいさんとがん』（文学的文章单元Ⅱ）、『本の世界を深めよう 雪わたり（『やまなし』を含む）』（文学的文章单元Ⅲ）である。

順を追って、『大造じいさんとがん』、『雪わたり』（『やまなし』）でのねらいと言語活動の設定意図を述べる。

（1）年間を通して目指す子どもの姿は

前述の自校教育課程で記したとおり、3つのポイントを柱として国語科の授業を作るのであるが、その土台となるものとして、以下のような本校児童の状況がある。

これまでに見てきた子どもたちの意識調査からは、「自分は友達
のよさを認められる」「自分は友達に認められている」という
子が増えている一方で、自己への肯定的な感情が低く、自信
がないと考えている子もまた増えていることがわかり
ました。

これら二つの矛盾する結果は、私たちに次のような子どもの
姿を思い浮かばせました。表れ方には大きな違いがあるけれど
も、心の中には同じ不安を抱えながら共に学校生活を送っている
子どもたちです。（平成22年7月 北海道教育大学附属札幌
小学校 研究紀要57 より **資料2**を参照のこと）

（2）各单元では何を

自己への肯定的な感情を高める授業作りをめざして、『大造じい
さんとがん』では、二つの視点から授業作りを行った。具体的には、

○一人一人に判断を問う学習課題の設定

大造じいさんにとって「ひきょう」って何？

→自分とは違う見方や考え方をもつ他者の存在を強く意識
できるようにする

○互いの根拠を問題としながら話し合われることで子どもの自尊心 を高めていく交流

理由を聞いて、なぜそう考えたのかが分かったよ。

→一つの正解に絞られない、それぞれの「自分の考え」が、
その根拠を問題として話し合われることによって「自分が
他者から認められた」という実感がもてるようにする。

この実践を通して、「自分の考え」をもてる子が増えたり、「自尊心」
の高まりが期待できたりするなどの成果が得られた。一方課題として、
一人一人の判断を促す以上、その根拠となる「文章内容の正確な理解」
をどう図っていくことがよいのかが明確になった。

資料3 『大造じいさんとがん』授業の実際 を参照のこと

目次

1. 本報告の
意図
2. 自校の
年間指導計画
3. 実践単元の
ねらいと
言語活動
設定の意図
4. 授業の実際
5. 成果と課題
6. 今後に
向けて

(3)ねらいと状況をもとに言語活動を設定する

そこで、文学的文章単元Ⅲでは、以下の2つのポイントを柱として授業作りを行うこととした。

○子どもが、文章を読む目的を、わかりやすいものとする。

『雪わたり』は題名にふさわしいかな

『やまなし』と『かわせみ』ではどちらが題名にふさわしいかな

→既習事項である「話すこと・聞くこと」領域の「討論」活動を活用して、文章を詳細に自分で読む意欲を高める。

○子ども一人一人に表現する機会を作り、そこに至る準備の過程で繰り返し、指導と評価を行う。

「討論会をしよう」での学習を生かして、文章をもとに自分の考えを作ってみよう。

→「自分たちの主張」「主張する理由・文章中の言葉」、「予想される質問や反論」など一人一人に考え、表現すべきことがあり、グループで協同作業をすることで、自然と交流が生まれる。ワークシートにまとめられたことについて、事前に教師が指導する機会が確保でき、子どもの反応を受けて、繰り返し指導することができる。(反応を受けて、評価することが次への指導につながる。)

具体的なものとして、『雪わたり』の一読後にとったアンケート調査とまとめたものを資料として見ていただきたい。

(4)表現する場があって、指導と評価が繰り返される

資料4『雪わたり』指導のために①、②、③である。中で抽出した児童は、②、③ともに題名への判断について文章中から根拠を見出している、見出そうとしていることが見て取れる子たちである。

②は『雪わたり』が題名としてふさわしくないと考えた子たちで、③はふさわしいと考えた子たちである。そして、No.7, 33、9, 37の子たちは内容の読み取りがさらに進むと、自分の考えが根拠を明確にした説得力のあるものになっていくことが期待できる。

今回、『やまなし』を組み込んだのは、より、抽象度の高いと考えられる物語で題名の適否を考え合うことが、『雪わたり』での自分の判断を見直すきっかけになると考えたからである。

(詳しくは**資料5**、『やまなし』学習指導案、板書、授業映像を参照のこと。) そうした、意図をもって設定した言語活動を通して、ねらいにある「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。」ことがどの子にも実現するように、討論に向けてのワークシートをもとに指導と評価を繰り返して行ったのが**資料6**である。

目次

1. 本報告の
意図
2. 自校の
年間指導計画
3. 実践単元の
ねらいと
言語活動
設定の意図
4. 授業の実際
5. 成果と課題
6. 今後に
向けて

その1

言語活動を通して指導事項を指導する

…具体的にはどうするとよいのか

どの子にも「願う子どもの姿、国語科のねらい」の実現に向けてよい言語経験をさせたい。今回は、読むことの指導事項エ「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」、オ「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」を指導するために効果的な言語活動についての試行錯誤を報告させていただいた。

今回の「話すこと・聞くこと」領域の言語活動「討論」を「読むこと」のねらいを実現するために位置付ける試みは、以下の3点の効果があると考えられる。

- ① 討論というわかりやすい目的があるため、文章を自分から詳細に読もうとする姿が生まれやすい
- ② 子どものワークシートを通しての指導が確実にできる
- ③ 子どもたちにとって交流する必然が生まれやすく、自分の考えが相手にわかってもらえたという実感が得られやすい

その2

子どもたちの状況をとらえ、指導に生かし、力を高める

…具体的にはどうするとよいのか

今回は、「題名に内容があると思うか話し合ってみよう」という提案に対して、子どもたちがどう反応し、どう指導につなげてみたかという報告をさせていただいた。

その1でもふれたが、まず、表現する場が全員にあって、そのために準備をする過程で、読むことのねらいに近づけていくための指導が可能になった。状況のとらえ方は、指導者の提案の仕方によって変わるものであると考えられるので、ねらいにそった学習の方向付けが指導と評価を可能にするのではないだろうか。

通年 目的に応じた筆記具を選んで書く。毛筆を使用して穂先の動き、点画のつながり
を意識して書く。

IV
目的に応じて、複数の
の本や文章などを選
んで読む。

表現の効果などを確かめたり工夫したりする。経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句を作ったり、物語や随筆などを書いたりする。

ふじぶさ文型に欺り組もう

(2) 強さと優しさを結ぶものこそ信頼

2007年から4年間、私たちは「強い」という言葉を様々な角度から考え続けてきました。

- 【強い子】
- 粘り強く対象に向かうこと
 - ー 探究する子
 - 積極的に他を求め、受け入れること
 - ー 共感する子
 - ー 【強い関係性を培っている集団】へ
- (2009 本校研究紀要より)

CONTENTS

強い人が創る
優しい学校

1 研究主題

- (1) はじめに
- (2) 強さと優しさを結ぶものこそ信頼

2 研究主題

- (1) 実現するた
めの課題は
- (2) 主観点①
- (3) 主観点②

3 今後に向けて

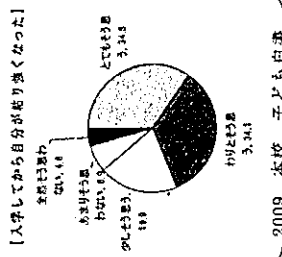
認められることは自信につながる

私たちが子どもの「強さ」の一面であると考え「粘り強さ」についての調査結果です。90%近くの子どもたちが、肯定的な意識をもっています。

各学年の意識も全体平均と同様で、満遍なく「入学後、自分は粘り強くなった」と考えている子が多いという結果が出ています。

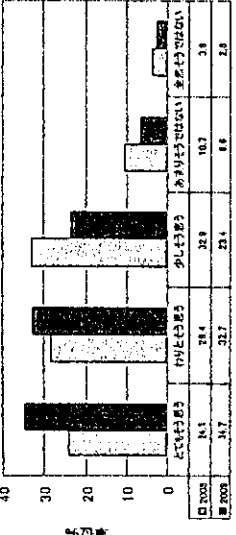
これまでに取り組んできた、子ども自身が学習活動に能動的に取り組むために「目的」をどのように高くしていくとよいか、そして、学習活動の構成の仕方をどう工夫すること、子ども自身の力で「学習の価値」が見えてくるようになるのかという研究内容が実を結びつつあることが期待できます。

また、「自分は、友達の上を認める子か」という質問にも肯定的な答えを選ぶ子どもたちが増えています。この結果は、別の「自分が友達から認められていることは何か」という質問に対して、「特にいい、わからない」という否定的な答えを選んだ子がこれまでの調査結果の中で最も少ないことから見て矛盾する結果ではありません。



2009 本校 子ども白書

【自分は友達の上を認める子か】

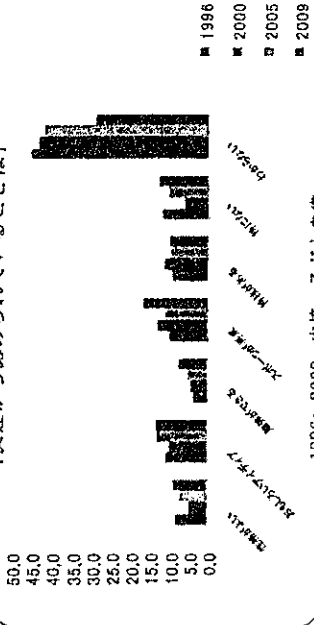


2009 本校 子ども白書

自分は粘り強くなっているという意識の高まり

自分は友達の上を認めているし、友達からも認められているという意識の高まり

【友達から認められていることは】

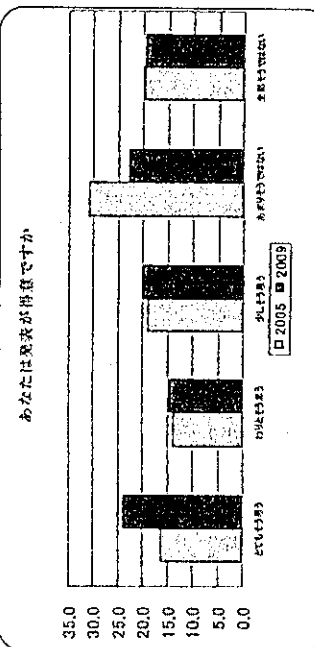


1996～2009 本校 子ども白書

東京学芸大学准教授の倉持清美氏は、自分が友達から認められているという仲間からの評価は自信となり、「自信は、自分という存在を肯定的に捉え、新しい人間関係を築いたり、活動に積極的に取り組もうとしたりする力になる。」と主張されています。また、エリクソンなどに代表される、「発達課題」としての集団と自信の関係について、「学童期以降は子どもたちの価値観を形成するのに仲間が重要な役割を果たすようになってくる。仲間集団の中での自分の位置が彼らの自信と大きく結びつく。仲間の中で認められれば、自分への自信ともなるが、そうでなければ自信が得られず、つまらない学校生活になってしまいかもしれない。」と述べています。

私たちは子どもたちの現状を見つめる中で、自分に自信をもてるように子どもを育てることは「強さ」のもう一つの面である「積極的に他を求め、受け入れる」ことにつながることを考えると考えました。

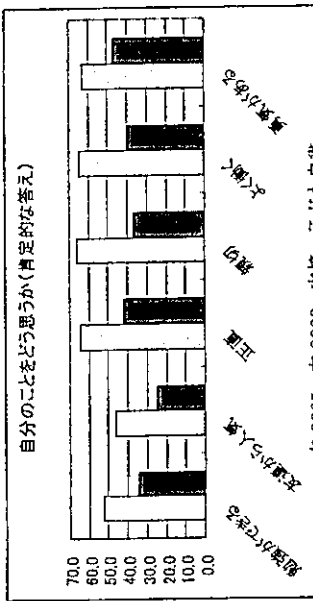
ここで、二つの調査結果を示します。一つ目のグラフは、自信の表れの一つとして考えた「発表を得意だと思う」子の割合です。



2009 本校 子ども白書

発表に対して「強く」得意であると考ええる子が増えています。しかし、強く「得意ではない」と考える子の割合には変化がありません。

もう一つは、「自分をどう思うか」という質問への答えです。4年前に比べて、肯定的な答えの割合が低下しています。



左 2005、右 2009 本校 子ども自信

これまでに見てきた子どもたちの意識調査からは、「自分は友達によさを認められる」「自分は友達に認められている」という子が増えている一方で、自己への肯定的な感情が低く、自信がないと考えている子もまた増えていることがわかりました。

これら二つの矛盾する結果は、私たちに次のような子どもたちの姿を思い浮かべさせました。表れ方には大きな違いがあるけれども、心の中には同じ不安を抱えながら共に学校生活を送っている子どもたちです。

子どもの心にある矛盾

自己への肯定的な感情が低く、自信のない子どもたち

子どもの心をもう一度見つける視点
「自尊心感情」

「自尊心感情」を下げさせてしまう要因は

自分は発表が得意だと強く思う子の心

青山学院大学教授の古荘純一氏は、自信と関連の深い自尊心感情（自分自身をどう受け止めているのか）と子どもとのかかわりにおいて、高い子どもは、逆境に強く、いじめに屈することもなく、失敗に動じない傾向があり、低い子どもは、その逆の傾向のあることを紹介しています。そして、オランダなどの諸外国との比較調査を通して、日本の子どもたちの自尊心感情が非常に低いことを指摘し、その理由を様々な観点から考察する中で、子どもを取り巻いている家庭、学校、社会環境要因に依るところの大きさを述べています。

例えば、日本の子どもたちが幼いときから周囲の大人からの強い期待に対して過剰に反応しようとするこへの反動、学校の授業で自分が相手をにやにやと感ずる経験の積み重ね……。いずれもが、子ども自身に「自分はとるに足りない存在である」という、自尊心感情を下げさせてしまう要因になり得るのではないかとこの警鐘です。

自分は発表が得意だと強く思う子が、授業や他の活動でも意見をどんどん出していく姿からは、伸び伸びとした活発な子どもが想像されます。しかし、その子どもたちの中にも、実は多くの面で自分に自信がもてていない子が少なからず存在します。その子たちにとって、発表することと友達に対して積極的にいかかわろうとしているというよりも、教師や保護者などへの期待に対して、発表することによって、自分を認めてもらおうという意識が強く働いている可能性を考える必要があるのではないのでしょうか。

自分からは強くかかわろうとはしない子の心

自分に自信をもちたてくれる集団となるために

信頼を生むために大切なことは

意識を高め、行動につなげる

他者への信頼が個の強さと集団の優しさをつくる

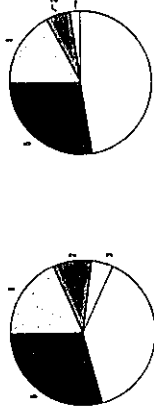
また、そのような子どもと共に過ごしている「あの子はすごいな」とか「そういう考えもあるんだな」と友達の様子に感心しながらも自分からは強くかかわろうとはせず、話し合いや活動の成り行きを見守る子。こうした子たちにとって、自分自身を肯定的に受け止める気持ちはいつ、どのように育つのでしょうか。そして、子どもたちが日々の生活の基盤となる学級は「自分に自信をもたせてくれる集団」と成り得るのでしょうか。

学級や学年、学校という集団は、子どもたちが将来への夢や希望をもつための自信を得るために欠かすことのできない「他者」であるはずで、私たちは、これまでに見えてきた子どもたちへの意識調査を通して、改めて考える必要があることを感じました。それは自分に自信をもたせてくれる集団づくりには何が大切なのかという問いです。

望ましい集団づくりへ。時には驚つくことがあるかもしれないけれど、きつと自分を受け止めてくれる、うまくいくことばかりではないかもしれないけれど自分がかかわることによって何か新しいことが得られるはずだ……そうした「他者」を信頼して行動できる「人間関係」をつくること。私たちはそこに解決への糸口を求めました。

こうして、子どもたちが「他者への信頼を高める」ことに解決の方向を見出そうとした私たちに、次の調査結果が目に残りました。

「仲間はずれになっている友だちをみたらどうするか」



1 声をかけたいができない 2 あまり気にならない 3 仲間はそれになるのはその人が悪いのだから放っておく 4 声をかけよう 5 友だちにならなうとすると

左 2005、右 2009 本校 子ども自信

このデータでは、仲間はそれにならなうという友達に積極的なかわり(項目1、2、3)をもととしないう子どもは、全体の四分の一を占めます。確かにそのこと自体は問題です。しかしその一方で、具体的な行動にまでは結びついていませんが、「心がける」という意識の段階では確実に増えていることがわかります。

自分が行動することは必ず誰かが受け止めてくれる、いつも自分の期待通りにはならないとしても、自分から行動をおこすことが何らかの変化を生むはずだという「他者への信頼」。

日々の学校生活の中で「他者への信頼」を高めることによって、子どもたちの心に「強さ」を育み、「優しい関係」を築ける人を育てることができ……私たちがそう考えてみることにしたのでした。

資料3

『生き方を見つめて読む』『大造じいさんとがん』(教育出版5年上)を通して

1. 授業の実際

- ① 全文通読後、難語句調べを行う
- ② 難語句の交流をしながら重要語句の意味を確認し合う(例 いまいますく)
- ③ 物語の全体を大よそ理解できるように整理し、大造じいさんの行動について疑問に思ったり、みんなで話し合うと楽しそうな問題を考えたりする
※子どもたちの疑問等一覧をご覧ください。

学習の実際

- ・題名と内容を比べて感想を述べ合う(なぜ“がん”なのかな。残雪の方がよさそう。)
- ・場面1と4を読み、大造じいさんががん(残雪)をどう思っているかが分かる叙述を見つけて比べてみる
- ・各場面の時間を表す言葉を見つけさせ、足かけ三年にわたっての話であることを確認
- ・残雪の来る前と来るようになってからの大造じいさんの生活の変化を予想し話し合う
- ・各場面でのじいさんの行動(作戦)を確かめ、場面一にある通り、残雪との戦いが「特別な作戦」であることを確かめる

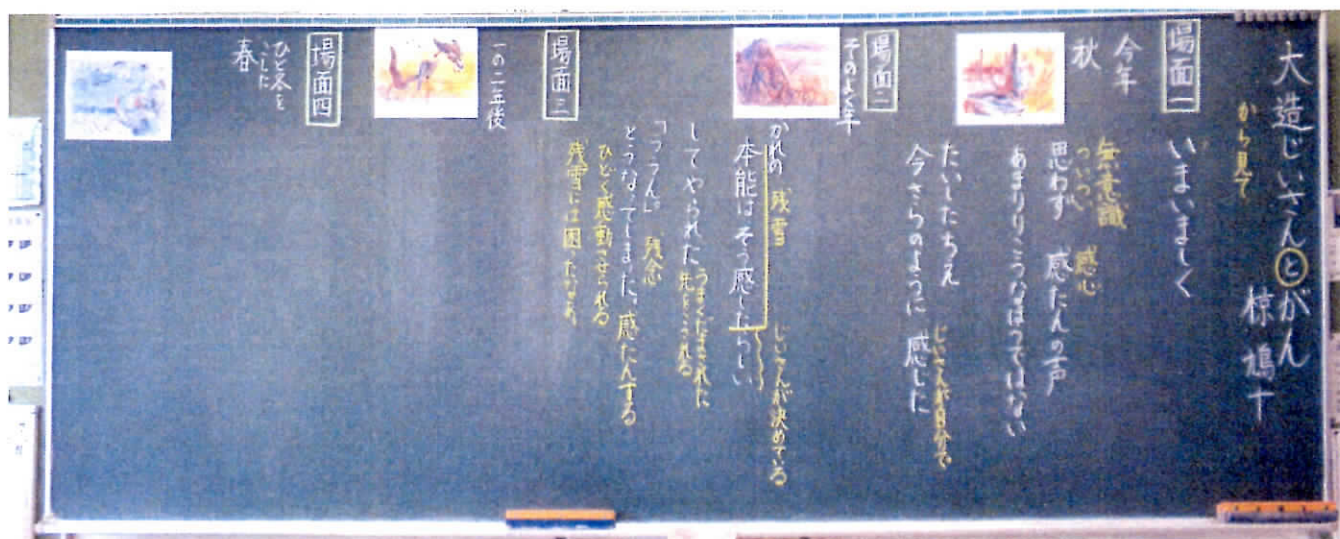


- ④ 疑問について、話し合うことを通して解決する
子どもたちの疑問から、簡単に解決できるものは子どもたちに話させて解決し、主題にかかわる重要なものは、取り上げて教師も意図的にかかわりながら話し合う

子どもたちの疑問を一覧にして整理し、中で3と4の場面のじいさんの言動に疑問が集中していることを確かめ合った。

北海道教育大学附属札幌小学校 岡田一伸

そこで、場面三の「ふたたびじゅうを下ろして」しまうまでのじいさんの心情を表す言葉を見つけ、その変化を考えるとという解決方法を提示し、取り組むこととした。



場面二まででじいさんの残雪に対する心情が変化していることを共通理解した上で、場面三の主題にかかわる疑問「じいさんが強く心を打たれたものは」に取り組んだ。



ここで、場面二で共通理解した「かれの本能はそう感じたらしい」の推量表現「らしい」への着目が既習事項として活用された。つまり、強く心を打たれたものが、じいさんの目から見た様子、つまりじいさんの心情が強くかかわって、結果としてそう思えたという「ようだ、ようでも」といった推量表現で表されていることに気付いていったのである。

残雪への共感を強くもっていた子どもたちも、「残雪がすごかったから」強く心を打たれたことは心にもちつつも、そう感じるようになったじいさんの心情の変化を強く意識できるようになっていった。

⑤ 登場人物の言動や物語の終わり方について自分なりの判断をする

こうした学習を経て、場面四の学習へと進んだ。この場面では、じいさんが残雪を逃がすという行動の意図を踏まえて、自分ならどうするかという判断をすることが目標となる。考えるための鍵になる言葉として、「ひきょう」を位置付けた。また、他の猟師から見て、じいさんの行動はどう見えているのだろうか考えてみる活動も取り入れた。

「自分なら、逃がすかそれともつかまえるか」じいさんの言動とその意図を踏まえたうえで判断するための1時間である。板書の左下には、ネームカードでその時点での判断が見える形で位置付けた。そのときに理由を話させた子たちは、どちらとも言えないとした真ん中の子たちである。なぜならば、じいさんへの共感もちつつも、物語に少し距離を置いて見る（逃がしたらその後どうなるのか、他の猟師たちはどう思うのか）といった両方の見方をもっている。そのため、「にがす」とした子も「つかまえる」とした子も自分の考えを明確にしたり、見直したりするきっかけになると考えたからである。もちろん、真ん中の子たちがその時点での迷いはっきりと表し、自分ならどうするかへの根拠を選択するきっかけとなることも期待した。



2. キーワードにかかわる補足

【自尊心と子ども】

青山学院大学教授の古荘純一氏は、自信と関連の深い自尊心（自分自身をどう受け止めているのか）と子どもとのかかわりにおいて、高い子どもは、逆境に強く、いじめに屈することも少なく、失敗に動じない傾向があり、低い子どもは、その逆の傾向のあることを紹介しています。そして、オランダなどの諸外国との比較調査を通して、日本の子どもたちの自尊心が非常に低いことを指摘し、その理由を様々な観点から考察する中で、子どもを取り巻いている家庭、学校、社会環境要因に依るところの大きさを述べています。例えば、日本の子どもたちが幼いときから周囲の大人からの強い期待に対して過剰に反応しようとする事への反動、学校の授業で自分が相手にされていないと感じる経験の積み重ね……。いずれもが、子ども自身に「自分とはとるに足りない存在である」という、自尊心を下げさせてしまう要因になり得るのではないかという警鐘です。

3. 事後に行った評価にかかわる補足

今後の課題としては、一人一人に根拠のある判断を求めるために、どう文章の内容を理解させていくかが挙げられる。

上記の「今後の課題」についてであるが、学習が終了した後に事後評価として以下の3つの質問をした。

質問1

最後の場面で大造じいさんは、「おうい。がんの英ゆうよ。おまえみたいなえらぶつを、おれは、ひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ。なあおい。今年の冬も、仲間を連れて、ぬま地にやってこいよ。そうして、おれたちは、また、堂々と戦おうじゃあないか。」とよびかけています。大造じいさんの言う「ひきょうなやり方」とはどのようなやり方のことを指していると考えられますか。そして、そう考える理由を教えてください。

質問2

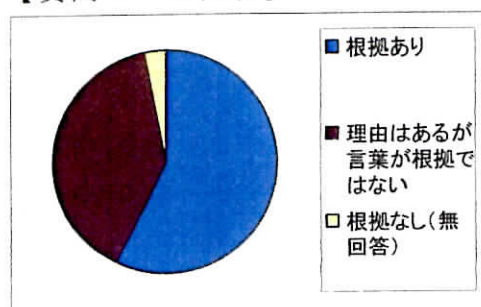
この学習を通して、「自分ならどうするか」(例、自分なら残雪を撃つ?それとも撃たない?など)ということを考えることを経験してもらいましたが、「大造じいさんがじゅうをおろしてしまった時の気持ちを考えよう。」という問題を考えていく学習と比べてみて、読み取る力はどちらが付きやすいと思いましたか。

質問3

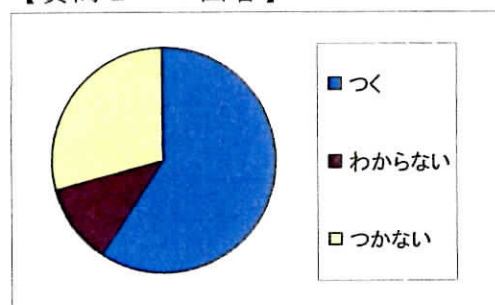
自分ならどうするかを考えて、意見を交流する学習には正しい一つの答えはありません。ただ、交流する中で自分とは違うけれども、理由を聞いて「なるほど」と思えたことはありましたか。また、自分の考えに友達が反応してくれて、うれしかったことはありましたか。

質問への回答を整理してみると以下のようになった。

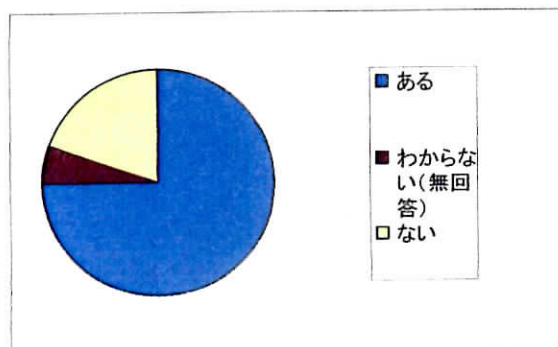
【質問1への回答】



【質問2への回答】



【質問3への回答】



質問2への回答で、「自分なら・・・」を選択した子でかつ質問3に「ある」を選択した子は90パーセントであった。この学習方法が自尊感情を高めていく可能性が見て取れる。「自分なら・・・」タイプの学習課題を中心として、判断するための読み取りをどう深められるようにするかという課題に対して、自分ではそうしないがじいさんは何故そうしたのかと自問した子が、「強く心を打たれた」という部分の表現に答えを求めていることは一つの手がかりとなった。

資料4

『雪わたり』指導のために

この物語を一文でまとめる 題名と内容は合っているか

5年1組

No.	氏名	ふりがな					合
1			四とか	けんた	けんた	けんた	X
2							△
3							○
4							X
5							X
6							
7	①→抽出						X
8			四とか	きつね	けんた	けんた	X
9	⑨→抽出						○
10			四とか	けんた	けんた	けんた	X
11			四とか	けんた	けんた	けんた	X
12							X
13							X
14	⑭→抽出						○
15							△
16							X
17			四とか	きつね	けんた	けんた	X
18							X
19	⑲→抽出		四とか	きつね	けんた	けんた	X
20							○
21							○
22							?
23	⑳→抽出		四とか	きつね	けんた	けんた	X
24							△ X
25							△
26			四とか	けんた	けんた	けんた	X
27							○
28							○
29							○
30							○
31	㉑→抽出		人の四とか	きつね	けんた	けんた	○
32							△
33	㉓→抽出						X
34							○
35							△ X
36			四とか	けんた	けんた	けんた	△ X
37	㉗→抽出						○

文中から根拠をどの程度見出しているか

○ 12
△ 14
X 19 → 67%
? 1
合計 36
合計 36
合計 36

あなたは、宮沢賢治が『雪わたり』という題名をつけたのはなぜだと思いますか。

實原をわたりて、それをも人間のこの眼で
 介するに何故だと問うて、
 登場人物が歌うたりしている姿があるが
 實原をわたりてゐるもの、に押して、

あなたは、『雪わたり』という題名は、物語の内容にあつて
ると思いますか。合っていると思う人はその理由を、合つて
いないと思う人は、あなたが合っていると思う題名をつけて
みてください。

- 1 まつねはく 國 (まつねはく) 國
 2 まつねはく 人 知 命 (まつねはく) 人 知 命
 3 まつねはく 話 (まつねはく) 話
 4 まつねはく 歌 話 (まつねはく) 歌 話
 5 まつねはく 人 知 命 (まつねはく) 人 知 命
 6 まつねはく ち (まつねはく) ち
 7 まつねはく の さつ ま たら (まつねはく) の さつ ま たら
 (8) 音 味 わ たら (8) 音 味 わ たら



一五五

→ 116-156 X 140 140 140
 116-156 X 140 140 140
 116-156 X 140 140 140

あなたは、宮沢賢治が『雪わたり』という題名をつけたのはなぜだと思いますか。

・四郎とがんとが雪をわたりて三つに合はれに行きけり。

E* 川に、くら、浪はない所は橋でわたる

雪の降り、は、こゝは半人前、さう、煙草を吸ふた、ば、
たに野原でも、雪をば、さう、くさくさ、行ひ、(さう、くさく、さう、)

[illegible]

あなたは、『雪わたり』という題名は、物語の内容にあつて
ると思いますか。合っていると思う人はその理由を、合つて
いないと思う人は、あなたが合っていると思う題名をつけて
みてください。

$$40^{\circ} \text{ F} = 4^{\circ} \text{ C} \times \frac{9}{5} = 72^{\circ} \text{ F}$$

題名「こころの老人のついでに」

理由の物語は、たゞしく三つおと人間の信頼關係を主にしたものに思ひうで、人間がこれなを信頼しているか、というのを確かめた。三つのおと人、三つのおと人間を信頼してゐた。ゆへに人を題名に入れたらいいと思ひながらです。

あなたは、宮沢賢治が『雪わたり』という題名をつけたのはなぜだと思いますか。

雷がふもつてゐるやまに、好きは方へ行、
 子あつたの銀三郎に会ふ。
 雷がふもつてゐるやまに、赤く。

あなたは、『言わたり』という題名は、物語の内容にあっていると思いますか。合っていると思う人はその理由を、合っていないと思う人は、あなたが合っていると思う題名をつけてみてください。

桑川(郎6#、27日)

あなたは、宮沢賢治が『雪^{ゆき}わたり』という題名をつけたのはなぜだと思いますか。

四郎とが父子をぎっね小学校のりけん会へ行く
ために、大理石よりも固くよ。た雪をもちてま
くいるから。

あなたは、『誓わたり』という題名は、物語の内容にあっていると思いますか。合っていると思う人はその理由を、合っていないと思う人は、あなたが合っていると思う題名をつけてみてください。

2546

自分考へて署名
不思議女子哉とね

五.五

其の如き事なるは、
 其の如き事なるは、

『雪ゆたり』 ③

あなたは、宮沢賢治が『雪わたり』という題名をつけたのはなぜだと思いますか。

いへば、物語が進行します。

「金田正太郎の活躍の事」

「雷がたつと、電気がたつのは、金と云ふ。」

此の如くは、 Δ に於て、

あなたは、『書わたり』という題名は、物語の内容にあつて
 いると思いますか。合っていると思う人はその理由を、合つて
 いないと思う人は、あなたが合っていると思う題名をつけて
 みてください。

解法: $\triangle OAC \sim \triangle OBD \sim \triangle OEF$

雪がふたまたでわたれることにて、紺三郎は仲良くなれ
た。きつねは信じるにぞしめるようになった。

「事」をたゞ「こと」にして物事始めると思ふからん
 ことも亦いはず。

$$2 \times 15 = 30 \text{ 人} \quad 30 \times 2 = 60 \text{ 人}$$

No. 44

あなたは、宮沢賢治が『雪わたり』という題名をつけたのはなぜだと思いますか。

。鹿角が、た時に、鹿角がある、人々も、おれ
に会った、こころは、二はる、人々は、
本林を造り、人がては、その中へ、四郎一人子
母が色々な体験をしてゐるから。

①「雪が、おてち」をきいて、雪玉をお
くつかまないと、下の段又にも紺三郎が「雪
がやあかにならうと、⁽³²⁾
⁽³³⁾おてちさん」と言っている。

あなたは、『変わたり』という題名は、物語の内容にあつてい
ると思いますか。合っていると思う人はその理由を、合つて
いないと思う人は、あなたが合っていると思う題名をつけて
みてください。

あてゐると思つて、「雷が来た時」に雷を
たたくとの関係があり、雷をあてゐるといふこと
のサブの体験に比べて分かれてゐる。「雷が来た」
といふ内容について分かれてゐることは、
その通り、題名だと感ずる。

No. 37

あなたは、宮沢賢治が『雪わたり』という題名をつけたのはなぜだと思いますか。

4. 計算上の誤差は、次の通りである。

 (単位%)

$$25 \times 2 = 50$$

雪の上をわたる行くから。最新は雪の上をわたる
いる間にキツネの^性三郎に出会ふにしようから。

$\frac{1}{x^2} = x^{-2}$

五年一組 名前

あなたは、宮沢賢治が『雪わたり』という題名をつけたのはなぜだと思いますか。

[illegible]

あなたは、「悪わたり」という題名は、物語の内容にあつて
 いると思いますか。合っていると思う人はその理由を、合つて
 いないと思う人は、あなたが合っていると思う題名をつて
 みてください。

田舎の風景
 田舎の風景

— 培われるべき見方・考え方 —

この単元では、「物語を読んで心に生まれる感動やユーモア、安らぎは優れた叙述が生み出す。」(学習指導要領解説より一部引用)という見方や考え方を培いたい。「優れた」という感覚には、個人差があると思うが、作者が伝えようとしたことを考え合う過程で、叙述に自分なりの意味を見出し、伝え合う活動を通して、考えが広がったり深まったりすることを実感できることをねらいたい。

I 見方・考え方を引き出す道筋

題名の適否を判断する活動を通し、叙述への着目に向かう。 宮沢賢治の物語は、事件に沿って登場人物の言動の意味を考えるというこれまでの読み方では、なかなかおもしろさを感じ取れないことが多い。

そこで今回は、『題名』についてその適否を判断する活動を通して、叙述の意味するものへ着目していくような逆の流れにした。『雪わたり』をはじめに扱い、題名の意味を問う。次に、より内容の抽象的な『やまなし』で考えてみる。事件と言動から積み上げていくのでは考えにくいお話を題名の意味を問うことで叙述のよさを自分で意味づけしていく姿が生み出せる。この学習後もう一度『雪わたり』の意味を考える機会を作ったり、他の賢治作品への読書意欲を高めたりしたい。

II 見方・考え方の高まりに向かおうとする場

題名の適否を判断する活動から、叙述に込められた意味を自分の考えとしてもとうとする。

『雪わたり』でその題名の意味することを尋ねると、「雪をわたっていけるときに幻灯会に行けるからつけたのかな。」といったお話の筋から意味づけする子が多い。しかし、『やまなし』では、二枚の幻灯のうちの一枚にしか出てこないものであり、筋から考えればその意味するところがよくわからないと思いがちである。そこで、もう一枚の方に同じような位置づけで出てくる「かわせみ」と比較して考えられるようにする。そうすることで、『やまなし』と「かわせみ」の描かれ方に着目し、その叙述の意味するものが何なのかという見方で自分なりに考えてみようとする姿が生まれる。

III 活動構成 (10 時間扱い 本時 5/10)

単元の目標 宮沢賢治の物語を読み、優れた叙述がもたらす効果について自分の考えをもつことができる。
他者の見方や考え方について、根拠について考え合うことを通して理解し合おうとする。

活動1 宮沢賢治の『雪わたり』を読み、これまで学校で読んできた物語と比べてみる。(2 時間)

【表現への着目】

表現の仕方が不思議だなあ。
歌のような文がたくさんある。
比喩がたくさんある。
色の感じが強く表れている。

宮沢賢治の物語って何を伝えたいの？

【内容への着目】

起承転結がはっきりしない。
事件らしい事件がない。
題名と内容のつながりがよく分からない。

活動2 題名から伝えたいことを考えてみよう。『雪わたり』となぜつけたのかな。内容に合っているかな。(1 時間)

雪をわたっていけるときにだけ子ぎつね紺三郎のいるところにいけるから。でも、「きつねと友情」の方が内容と合ってると思える。

表現と内容は関係がとっても深い

活動4 3 時間
『雪わたり』や他のお話を読んでもう一度考えてみたい。

活動3 (3 時間 本時 5/11)

『やまなし』を読んでみよう。なぜ『やまなし』という題名にしたのかな。

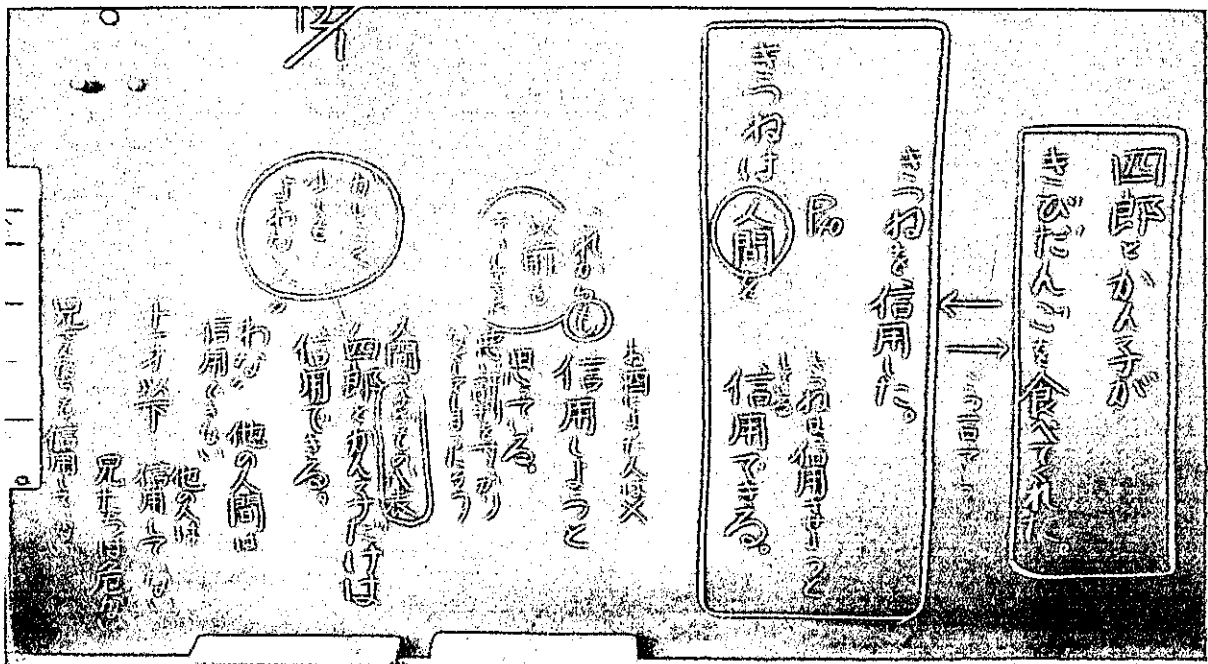
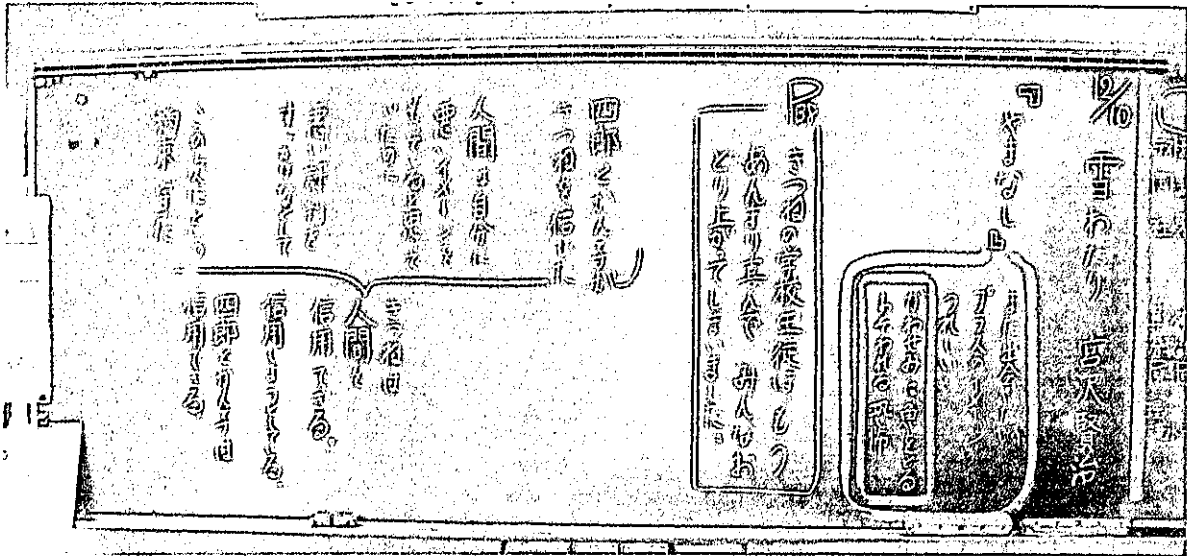
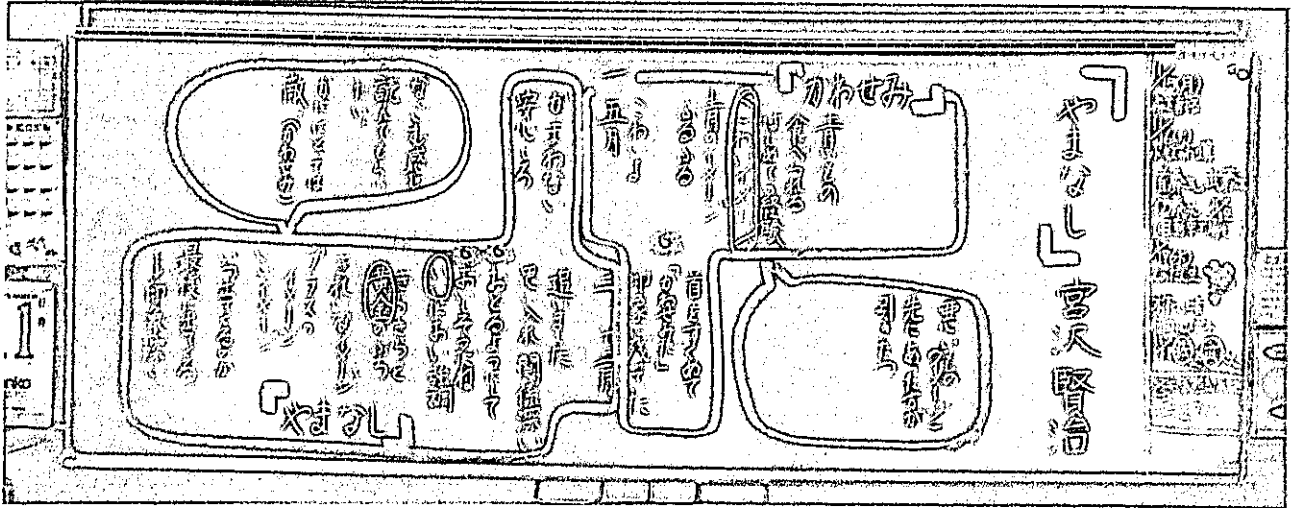
『やまなし』と『かわせみ』ならどちらが題名にふさわしいかな。
どちらもそれぞれ天井からきたものなのになぜ「やまなし」が。

IV 本時の学習

【目標】 「やまなし」と「かわせみ」のいずれが題名としてふさわしいかを考え合う活動を通して、優れた叙述の効果について自分の考えをもつことができる。

子どもの学習活動	教師のかかわりと評価
<p>【前時まで】『やまなし』を読み、「一 五月」と「二 十二月」の内容を「か」の親子が何を見たのか」という視点から比べて考えている。題名の『やまなし』が「十二月」にだけ出てくるもので、それに対応するものが「五月」では「かわせみ」であり、なぜ『やまなし』が題名として取り上げられているのかを疑問に思っている。</p>	
<p>『やまなし』と『かわせみ』では、どちらが題名にふさわしいかを考え、話し合うことを通して、賢治の伝えたかったことを考えよう。</p>	
<p>2つのグループに討論してもらいながら考え合おう</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の「討論」の形式で代表2グループが話し合い、他の7グループは自分の考えと比べながら聞き、適宜メモをとる。
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>『やまなし』の立場で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまなしは、かわせみと比べて「黄金のぶち」とか「いいにおい」、「おどるようにして(追う)」などとても平和で優しい感じがする。これが賢治の伝えたかったこと。 ・五月は死とか殺されるなどの暗いイメージがある。賢治は十二月で「いいにおいだろう」「おいしそうだね」など生きることの喜びを伝えたかった。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>『かわせみ』の立場で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわせみは、「おかしなもの」「こわい所」へ連れて行く者として描かれている。平和そうな小川の中でも、常に生きることの大変さ、命の大切さを考えさせようとしている。だから「かわせみ」はこのお話にとって大切な存在。だから題名には『かわせみ』。 ・五月は暗いイメージのようだが違う。か」の親子にとってはかわせみは「かまわないもの」。 </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場からの主張を、根拠となる言葉を明確にしなが板書し、整理していく。
<p>賢治が『やまなし』を題名にしたのは、どうしてなのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 代表の討論が終わったら、他のグループの意見を聞き、題名に込めた賢治の思いをみんなで考え合う場を設定する。
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>「二 十二月」の方をより強く伝えたいことははっきりさせたかったからではないだろうか。</p> </div> <div style="background-color: black; color: white; border-radius: 50%; width: 15%; height: 15%; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin: 0 10px;"> <p>伝えたいことと表現にはつながりがある</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>「一 五月」を書いたのは、「二 十二月」をより強く印象づけたいからではないだろうか。</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>「五月」があるから、「十二月」の意味がはっきりする。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 意見が「五月」にふれられない場合は、「五月は必要ないのだろうか」と問い、「五月」の叙述の効果についても考えられるようにする。
<p>賢治は『やまなし』という物語を通して、自然の厳しさの中で生きることの喜びを伝えたかったのではないだろうか。</p> <p>『雪わたり』の題名には、もっと深い意味が込められていたのかな。賢治の他のお話も読んでみたいな。</p>	<p>評 伝えたいことと叙述(表現)にはつながりがあることに気づき、題名に込められた作者の思いを自分なりに考えることができたか。</p>

資料5 【『雪わたり』と『やまなし』の板書】



主張カード

(4) グループ 名前

テーマ どちが題名にふさわしいか。	
自分たちの立場 やまなし	
チーム内での分担 はじめの発表者 () 最後の発表者 () 質問や反論に答える人 ()	予想される質問や反論 やまなし、の方が是より にふさわしいと思えます。 やまなしの方が強い ので、本能的にうかが やまなしは、少ししかで いるからです。
主張する理由・文章中の言葉 やまなし(が)かにとがわ ている。(かわせみはがる) 黄金というこぼが たさんでている。 がに、よは存在。	実際の質問や反論 かわせみはがる 11/9
最初の主張	
最後のまとめ	

文中から根拠を
もって見つけてみる。

主張カード

(2) グループ 名前

テーマ どちが題名にふさわしいか。	
自分たちの立場 かわせみチーム	
チーム内での分担 はじめの発表者 () 最後の発表者 () 質問や反論に答える人 ()	予想される質問や反論 かわせみはがる 11/9
主張する理由・文章中の言葉 「まもる」の所 「居る」の所 「まもる」は、まもるに 「居る」は、居るに 「まもる」は、まもるに 「居る」は、居るに	実際の質問や反論 まもる、色、まもる、色、まもる、色 まもる、色、まもる、色、まもる、色
最初の主張	
最後のまとめ	

やまなしは、かきか

主張力一下

(/).グループ 名前

二一七

どちらが**重名**にふさわしいか！

自分たちの立場

五十七

チーム内での分担

はじめの発表者 () 主 () の発表者 ()

質問や反論に答える人（

予想される所問や反論

自分たちの主張

かには主人公ぞ、そのかゝるにやまはしは
かゝりあるか、かゝれせみしにはあまり
ない。

これがわかる文は...
117 のお父さんの言葉 (カキセキは
かみせんは)
112 のお父さんの言葉 (かみせんは)

主張する理由・文章中の言葉

主張する理由	文章中の言葉
--------	--------

實際の質問や反論

「かんけいがないと言っていたが、
かんざみ、という鳥もいるんだよ」
「うきまきとまたスズメの？」
かんざみ、あると思っ

具体的には
どのような関係にある？

最初の主張

主人公のカムフラージュ

最後のまとめ

かわせみは、かきを食べたりしながらのて、産むして、さつきかせみはらうけに
あるといふ。たけと、じろい鳥だよ」などとめりえてくれたのは、
かんこのお父さんだから、かわせみをかきではない。

11/10 カレセミと安心はつながるのだろうか？
ヤザミは どうだろう？

主 張 力 一 下

(1) グループ 名前

テ一ア

こちらが題名としてふさわしいか。

自分たちの立場

7-4 「HEPICK」

チーム内での分担

はにめのである者 ()

質問と回答に答へる人

不相立，乃質問之曰：

P112 25
「はい、そうだね」から、わかせるはじ
まりにわくわく？

1. かくうあまうび... は
 こうした根拠のある
 予想はどれも大切です
 11/9

主 張 す る 理 由 ・ 文 章 中 の 言 葉

[illegible]

Prob-109 & 12

「ニヒサハ（まはした）
で、強い、強いイナニ」
4703

張の最初の

最初の主張

最後のまとめ

張二イ十三：見てゐる（實際に）ハ、二本いいイイハ、……分るから、……